

2015年11月9日
ANA 総合研究所
アルザス・欧州日本学研究所

ANA 総研とアルザス・欧州日本学研究所(CEEJA)の 協力覚書の締結について

～ANA と CEEJA(セジャ)は日本と欧州の架け橋となります～

ANA グループの ANA 総合研究所*(本社:東京都港区、代表取締役社長 長瀬真)と、アルザス・欧州日本学研究所*(本社:フランス アルザス オ・ラン県、所長 アンドレ・クライン、略称 CEEJA)は、日本とアルザス地方の 150 年にわたる友好関係*や、欧州の要所であり「欧州の心の中心」と言われるアルザスの地政学的位置付けを基に、日本と欧州間の更なる交流促進を目的に、多面的な連携強化を目指し、以下の通り、協力覚書を締結致しました。 *別紙に説明資料あり

1. 日欧間の相互理解促進と認知度向上

日欧間のより良い相互理解の促進を互いに協力して行い、欧州におけるANAグループの知名度向上と日本における欧州アルザス地方の知名度向上に繋がります。

2. 産品輸出入の促進

CEEJA は、ANA グループが日本⇄欧州(アルザス地方、他)における産品輸出入を促進するために行う市場調査などに協力致します。

3. 学生への研修プログラム

- (1) 欧州アルザス地方の学生を対象にした日本での研修プログラムを検討・実施致します。
- (2) 日本の学生を対象にした欧州アルザス地方での研修プログラムを検討・実施致します。

4. 日本の地方と欧州アルザス地方の橋渡し

- (1) ANA総研は日本の地方に有するネットワークを活かし、欧州(アルザス地方、他)と日本各地の橋渡しを検討・実施致します。
- (2) CEEJA は、ANAグループが欧州(アルザス地方、他)に行う観光促進プロジェクトに協力致します。

上記目的などのために、CEEJA は ANA に対して「ビジネス・インキュベーター制度」の利用を認め、ANA から研究員の派遣を行う予定です。

《ビジネス・インキュベーター制度とは》

CEEJA が研究員を受入れると共に、事務所提供や日本語対応が可能なスタッフによる協力を行うなど、欧州市場への参入や事業拡大を検討している日本企業に対して行う便宜供与。CEEJA 独自の制度

また、本提携に先駆け、CEEJA の協力により、「フランスで最も美しい村」であるアルザス・リクヴィルで、アルザス地方の学生とのふれあいを目的としたウオーキングツアーを企画しています。

以上

お問い合わせ先:	ANA 広報部	／ 電話 03-6735-1111
	アルザス・欧州日本学研究所(日本代表)	／ 電話 052-789-0811

《資料》

【株式会社 ANA 総合研究所】

航空企業経営に関する調査研究機関として 2004 年に設立する、従来の常識に捉われることなく、航空事業に関する幅広く横断的な戦略を調査研究するとともに、ANA グループで蓄積した知識を大学教育、地域活性化や観光振興等で活用し、航空会社の事業範囲に捉われず、産官学での連携を推進している。

【アルザス・欧州日本学研究所(CEEJA)】

日本とアルザス地域圏を中心とした欧州との経済・学術および文化交流を推進するため、地元オ・ラン県とアルザス地方政府の主導で 2001 年設立。協力機関は日欧で 100 以上を数える。日本企業の進出・経済活動を支援すると同時に、欧州トップクラスの日本学研究施設として、日欧で多くの大学を支援している。2013 年には、これまでの友好国際親善に寄与した功績で日本国より「外務大臣表彰」を受賞した。

(主な事業)

- ① ヨーロッパ市場進出を見据えた日本企業へのサポート
(前身のアルザス開発公社(クライン所長が前理事)を含め、これまで、日本企業 20 社、現地雇用総数約 4000 人の実績)
- ② ヨーロッパにおける日本学研究の要としての役割
(欧州での日本学研究の要であるストラスブール大学・日本学学科との連携を始め、日欧の数多くの大学と学術連係や研修等を行っている。日本の提携校は東京大学、京都大学、名古屋大学、慶応義塾大学、早稲田大学、法政大学、東洋大学、学習院大学、同志社大学、立命館大学など)
- ③ 日本とアルザス間の文化交流促進
(アルザスは欧州でも一番古く日本との交流・友好関係があり、その友好関係の発展に尽力。アルザス地域圏の首府ストラスブールの日本国領事館も CEEJA の活動を支援している。)

アルザスと日本の友好関係：

19世紀半ば(江戸時代末期)、日本が鎖国に終止符を打ち世界に向けて門戸を開いた時、大阪の商人達が繊維産業で世界を牽引していたアルザスに日本の和柄図案を持ち込み、冬用着物の羊毛生地への染色・製造を依頼した。(1863年の発注記録が残されている)この交流はその後も続き、経済界だけでなく、芸術分野においても重要な役割を果たした。日本からアルザスに発注された和柄は、欧州の人々には日本様式の発見であり、欧州における「印象派」や「アール・ヌーボー」といった芸術様式誕生に多大な影響を与えた。

2013-14年には、CEEJAにより、「日本・アルザス友好 150周年祭」を開催。